昭和61年1月1日発行

J.P.C

謹賀新年

No.31

新年のごあいさつ

株式会社コマキ楽器社長　小牧正明

ＪＰＣ会員の皆様、新年あけましておめでとうございます。

ますますお元気にパーカッションでご活躍の事とお慶び申し上げます。

お蔭様でＪＰＣの会員も5000人を突破いたしました。北は北海道から南は九州沖縄までこんなにも多くのパーカッション愛好者の方々に信頼され期待をされている私達スタッフはその責任の重大さに思わず身震いを感じる毎日でございます。

しかし、目を世界に転じた時その層の厚さにあらためて感嘆させられてしまいます。1985年11月にロスアンジェルスで行われたＰＡＳのコンベンションに参加して、クラシックを初めジャズ、ロック、民族音楽、マーチング、スチールドラム、マリンバ等のパーカッションアンサンブルのクリニックやコンサートが４日間にわたり連日朝９時から夜10時迄開かれるのを見聴きし、只々驚き、その偉大さ、パーカッションの世界の広さ、その可能性、そして熱心な人々の数の多さを目の当りにして打ちのめされ日本に帰って来ました。そして、これから先ＪＰＣが成すべき事はまだまだ沢山あるのだと痛感いたしました。

昔から10年ひと昔とか申します。ＪＰＣも本年から11年目に入り、会員カードも新しくなり、会員規約も一部変更し、新たな気持ちでさらに素晴しいＪＰＣの会にするべく頑張ります。

皆様のお力添えをお願い申し上げます。

写真＝アール・ハッチ・スタジオにて

あけまして、おめでとうございます！

★Japan Percussion Center

南平史佳
我らが部長、シブく迫ってひと言。「広告依頼はお早目に！」とあい変らず。歯医者さんへ行きましょうね。

飛田恵三
ただ今ドラムスそっちのけで、シンセに凝ってます。といってもまだ買ってないけど。特注、工作はお任せ。

川島清
クラシック大好き青年。皆さんはじめまして。いやあ、若いって、いいですね。クックックッ……。

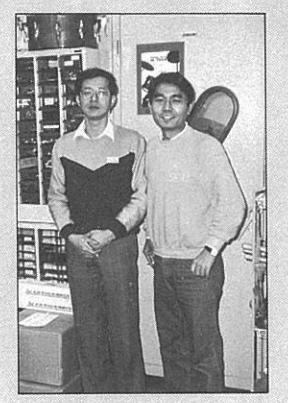
石井まゆみ
ヤマハのＣＸ５を買った！よく考えたらテレビがこわれてたので、テレビも買い換えた！寒いからヒーターも買う！……今年もさびしい貯金通帳。

橋本由香
まあ何て明るいお嬢さんでしょう。思わずトイレの100ワット。アルバイトではありますが、皆さんよろしく。

★Drum City

堤和幸
坊やは健やかに育ち、この方のお腹も健やかに膨れてきてます。天下分け目の関ヶ原、30越すとこうなるのか…。でも気持ちは藤原さんより若いよネ。

藤原敬日登
この方には１年前も今年も来年も10年経ってもソナー、プレミア。これっきゃない！あ、それから宴会の司会はプロ並み。皆様のご用命をお待ちしてます。



From TANZANIA

サバンナのおとずれ

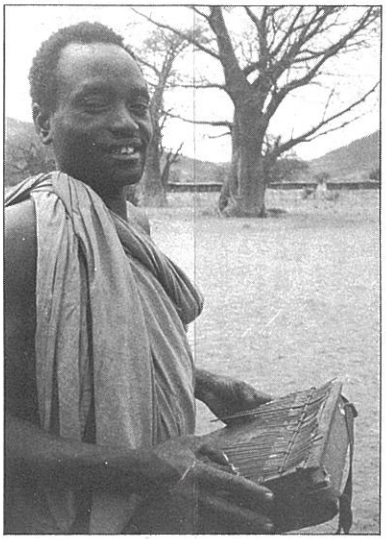
―タンザニア・ゴゴ族の親指ピアノ―

No.3892 直川礼緒

赤茶けた大地が果てしなく広がり、バオバブの大樹と平らな箱型の土の家がぽつんぽつんと点在するゴゴ族の村の昼さがり。強烈な日ざしを避けてバオバブの根元に腰をおろし、ミワ（砂糖キビ）をかじる。牛の群れの土埃が遠ざかっていくのを見送っていると、突然、遠くの方から親指ピアノの音がかすかに聞こえてくる。その音はだんだん近づき、やがて人の形を伴う。まさに「おとずれ」である。音と共にやってきた人物と午後の挨拶をかわす。楽器をみせてもらい、弾き方を教えてもらう……。

タンザニア中央部、ドドマの町を中心とする一帯に住むゴゴ族の親指ピアノ、カリンバには、大きくわけて小型のものと大型のものの２種がある。小型のものは個人的な楽しみの為にのみ使われ、大型のものは主に、古くからある楽団で他の楽器（パングワという琴の一種、ゼゼという２・３・５・８・12弦の擦弦楽器等）と合奏するのに使われる。

この大型親指ピアノの内、特に大きいイリンバと呼ばれるものを、1984年10月～11月の2ケ月間、ドドマの町から50km程離れたンザリという村で、ニャティ・ウタマドゥニ（バファロー伝統音楽集団）のリーダー、ムチョヤ・マロゴの家に居候し、メンバーのイリンバ奏者、デヴィディ・ニュムラ（通称サマンバ）に指導を受けた。この特大イリンバのチューニングはンゴゴと呼ばれる（チューニング例を下に示す）。30×30×10cm位の木の箱の上に40～60本の金属製のキイが並び、音域は５オクターブにわたる。



中央部のキイは、音を大きく響かせる為の共鳴用で、又、演奏中に狂った演奏キイの調律用や、折れたキイの予備にもなっている。演奏キイのすべてに対応して置かれるのが理想とされる。スケールは、例にとった楽器ではファソラドミb。

これはゴゴ音楽の基本となる、自然倍音から取った５音々階である。

しかし何という配列の仕方だろうか。演奏キイだけを見てみると、真中が一番低く、左右に次第に高くなっていく。この様な音の配列は、他の楽器には殆ど見られない面白いものだ。そして、配列の順序を細かくみると、低音域と高音域では音階が交互になっており、中音域では一部重複している。とても理論的な配置とは思えないが、これで演奏には最も適しているのだ。この他、この楽器には、アフリカの楽器によく見られる、ビンビン、ジャラジャラという様な雑音を発生させる装置がいくつも仕掛けられている。１つは、すべてのキイのブリッジ部にうすい金属片をゆるく巻きつけ、キイを弾くとその振動でジャラジャラ音が鳴るようにしてある。もう１つは、共鳴胴に数個の穴をあけ、蜘蛛の卵を保護する膜（紙状のもの）を張り、共鳴胴の中の空気の振動によってビンビン音が鳴る仕掛け。そしてもう１つ、共鳴胴の中に金属片（折れたキイなど）を入れて、共鳴胴の振動によりビビビというような音の出る仕掛けである。

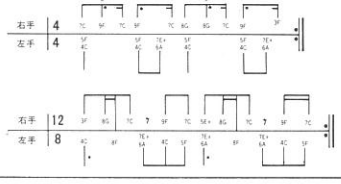
基本的な演奏方法は、両手で楽器をささえ、親指の爪でキイを上から弾く。この場合、一本のキイだけ弾くとは限らず、隣り合った二本を同時に弾くことも多い。何故親指などという一番動きの鈍い指を使って演奏するのかも、この楽器の不思議の１つである。上級編として、１つおいた２本のキイを、親指で上から、人差し指で下から同時に弾いたり、人差指でミュートしながら弾いたりもする。

他に特殊な奏法として、共鳴胴を叩いたり、ストラップを共鳴胴の裏板に打ちつけてリズムをとったりもする。演奏に疲れたら楽器を横に立てて椅子にもなる。

この楽器を教えてくれたサマンバ先生は自称80歳。どう見ても40歳位にしか見えないが、自分は80年位生きた気がするというから、そうなのだろう。毎日「２時」（日が傾き始めたころ、12時から６時の間をさす。村に時計はない。）に待ち合わせて楽器を習う。先生が遅い時には探しにいかなければならない。途中で出会う村人達にきくと、今日もろこし酒を作った家を教えてくれる。探しあてた時には２人ともすっかり酔っ払っていて授業にならない時もある。だがとてもよい先生で、基礎からみっちり教えてくれた。

授業が終ると散歩に連れていってくれる。行く先はたいてい酒のある家だが、時には結婚式、葬式、割礼式等も見せてもらった。又、他の村の祭りに呼ばれて楽団の一員として演奏もした。こうして、村の生活に密着した音楽を学ぶことができた。

最後に、数えきれない曲やパターンの内から基本的なパターンを２つあげる。親指ピアノは誰でも作ることが出来る簡単な楽器なので、興味のある方は挑戦してみてはいかがだろうか。



From U.S.A.

Percussive Arts Society

═第24回 インターナショナル・コンヴェンション═

水越敏雄（フリープレイヤー、JPCNo.577）

P.A.S.（全米打楽芸術協会）の年に一度の総会は、今年はロスアンジェルスで開かれ、昨年のミシガンでの盛り上りを記憶している小生は、やはり今年も…と安い航空券を探し回り行って来ました。

4日間の日程の中で、クリニックだけでもドラムセット8回、ラテンパーカッション4回、マーチングパーカッション4回、マレットパーカッション（鍵盤関係）3回、クラシックパーカッション2回etc、を毎回異ったプレイヤーが行うという量の多さ。その他モック・オーディションといって、学生なら誰でも参加できる、オーケストラレパートリーのオーディション（モックとは模擬の意）、個人技を含めたマータチングパーカッションのコンクールが3回、これに関するシンポジウム、各種ジャムセッション4回。そのうえ各種コンサートが10回以上開かれ、全部見聴きするには体がいくつあっても足りないほどだ。更に各楽器メーカー（オーケストラプレイヤーがやっているのも含め）、楽譜の展示なども終日開かれれており、全部を記すことは不可能に近いのでかいつまんでご紹介する。

①**ティンパニクリニック――N.Y.フィルのモーリス・ラング氏**＝ヴィック・ファース氏の司会でベートーヴェン、ブラームスのシンフォニーを中心に明快な内容で行われた。

②**シンバルクリニック――ボストン響のフランク・イプスタイン氏**＝クラッシュしたあとの音響の造り方に関し、氏独自のアイデアを盛り込んだ内容。

③**カレン・エルヴィン独奏によるティンパニ協奏曲のコンサート**＝作曲家で、元ロスアンジェルス・フィルのティンパニストであったクラフト氏の作品。冒頭、手に皮の手袋をはめて奏するのがユニークであった。終演と同時に聴衆総立ちのブラヴォー。U.S.C.の学生オケも好演だった。

④**シロフォンクリニック――ネクサスのボブ・ベッカー氏**＝ネクサスのメンバーとして日本でも馴染みの深い同氏、テーマとなるメロディを提示した後、それを基にラグ・タイムのスタイルで次々にアド・リブを聴かせてくれた。

コンヴェンションに集う人、人、人…。クリーヴランド響元首席ティンパニストのクロイド・ダフ氏、P.A.S.の英国名誉会員であり、英国の殆んどのオーケストラプレイヤーの師であり打楽器辞典を著わしているジェイムズ・ブレード氏を始め、小生が80年のタングルウッドや81年のアスペンで一緒だった友人達。この4日間は小生にとっても大変スペシャルな4日間であった。

ト部茂子（マリンバ・プレイヤー）

PASのコンヴェンションの事を耳にしたのは出発1週間前でした。出演者の名前を聞いた瞬間ゾクッとすると同時に胸の高なるのを覚えた。〝エッ、あのDavid Friedmanが…？〟以前ニューヨーク滞在中、ニューヨーク・フィルのMorris Langより紹介され、彼のマリンバとヴァイブを聞いたとたん〝何年も頭の中に描き続けたサウンドがこゝにあった〟と興奮し、コンサートというコンサートに出かけ、あげくの果てManhattanでレッスンまで受けたあのFriedmanに再会出来る…！〟そしてLangにも。

又、昨年ネクサスで来日、シロフォンで楽しませてくれたBob Becker、そして、又、又、Gary Burtonのクリニックとコンサートと聞いては、何が何んでもひとっ飛びしない訳にはいかないと、前後の見さかいもなく決心しました。〝とにかくどんなものか行ってみよう〟と集ったのは、マリンバの吉川雅夫さん、ヴァイブの金山功さん、それに私の三人。期待に胸をふくらませての出発です。

14日朝ロス着、さっそく会場のSheraton Hotelへ車で。到着してみると、まるで打楽器大学のキャンパスにでも来たのかと疑いたくなる様な光景。誰もが手に手にStickや楽器を持ち、エレベーターの中では打楽器の話しばかり。早速プログラムを頂き、またもやびっくり。4日間朝8時から夜中のジャム・セッションまでびっちりのスケジュール。どれも興味あるものばかり。我等三人頭と身体は夜中のコンディションなれど、ボケを修正する暇もなく行動開始。はてさてどこの会場のコンサートから行こうかと打合せ。

それから4日間というものコンサートの合間には楽器フェアの会場に出むき広い会場一杯に並べられた楽器、スティック、楽譜、レコード…をまるで夏祭りの夜店にでもいるかのごとく、うきうきしながら廻ったものです。〝きっともう三人は名物になっているね、こんなに毎日熱心に通って来てる人達いないもんね〟等と言いながら。

今まで限られた数の中から選ぶしかなかったスティックが自分の目で確かめられる…。Vic Firthのお店にはVic Firth氏が、Bob Beckerのコーナーには、クリニックをしながらBob Becker氏が。昔なつかしい、マリンバのルーツを思わせる楽器の所にはRoperさんが…、と、製作者と会話をしながら選べるのは、とても楽しい事です。でも、あんなに沢山のスティックがあっても、本当に魅力あるものは少ない様です。17日、日曜日の午前中でコンヴェンションは終りました。南国を思わせる、ホテルの素的なテラスでお茶を飲みながら、とめどもなく会話がはずみました。〝こんなに静かになったという事は、皆コンヴェンションの為の人達だったの？〟〝じゃ、

写真＝左より小牧、ト部、ハッチ、グレイニー、ブルードの各氏

写真＝左より小牧、ハッチ、ト部、金山、吉川の各氏

世界最大の規模を持つパーカッショニストのための組織PASのコンヴェンションが、ことしはロスのシラトンプレミアホテルとユニバーサルホテルで開催された。全ての打楽器クリニック、コンサート、そして楽譜・楽器の展示など文字どおりの世界的規模の内容であった。日本からも水越、ト部、吉川、金山各氏が参加した。以下はその感想文である。

3000人はいたかナ。〝あの、Harry Partch・Ensembleのサウンド、面白かったじゃない？。〝あのリーダーのDanleeって人ね、San Diegoで大学の先生をしててね、彼の先生がPartchで、あの音楽と楽器まで考え出したのよ。以前San Diegoでマリンバトリオやってた時ね、彼と一緒に演奏してたんだけどね。その時、楽器見せてくれたの。大学の一室に、とっても大切に保管してあった。〝創作楽器の珍しさというだけじゃなく音楽がきちんと出来てるから、お互いの必然性が重なり合って個性的なサウンドになってるんだろうね…。〝やっぱりBurtonはすごかったね！。〝クリニックの時、バチの持ち方色々悩んだ末、今のBurton奏法になったって聞いて、今まで遠く雲の上にいる様な人が〝あなたもやっぱり。とホッとしなかった？。といって笑ったり。〝あれはスティック持ってるとか、何んとか関係ないね、ピアニストの指と同じだよ、頭の中の音楽と直結だしね、ジャズとかクラシックとか言う前に音楽なんだよね。〞〝そして又、スティール・ドラムもすごいね！　いいアドリブするし、胸にクイーンと来る歌があるし。〝でも、びっくりしたじゃない？すごい人がいるもんだって感心してたら、違うスタイルのもっとすごいのがいたりして〞〝とにかく、言ってたらきりないけど、皆自分の音を作ってるね、そして、どの音楽も楽しかったね…。。尽きない話。気がついて外を見るとロスの夜景が美しく〝まるで、E・Tのテーマが聞こえてくるみたいだね。ってお互いに充実した顔を見合わせました。あの広大なアメリカ。あれだけの人達、演奏楽器に出会うには、どんなに多くの時間と努力が必要かわかりません。それが目の前に揃っているという事は、やはり素晴しいコンヴェンションだと思います。

吉川雅夫（マリンバ・プレイヤー、JPC№55）

ロスアンゼルスのプレミアホテルに入った時、まさかこれからホテル内の演奏会場を朝から晩迄アチラコチラと聴き廻り、4日間一歩も外へ出ないとは想像もしませんでした。雰囲気もあるのでしょうが、それほど魅力のあるものでした。コンサートスケジュール表に〔ジュリー・スペンサー　マリンバリサイタル…ワンマレットトレモロ〕とあり、まずは興味を持って出かけました。20歳ぐらいの可愛い女の子がニコニコしながら出て来て、チャイコフスキーや自作の小品を弾いた後、いよいよワンマレットトレモロの講義であります。右手に一本だけマレットを持って「ポン」と「ド」の音を打ちました。次に「くるっ」と手の元を返してオクターヴ上の「ド」を打ち、又もどって下の「ド」を打ち、それのくり返しをだんだん早くして行って、二度から二オクターヴ迄をトレモロで演奏しました。いくらなんでも単音のトレモロは無理だろうと思っていたら、最後に腕を横にしてポロポロポロとやったのにはびっくりしました!!各々方、何事も執念でござるぞよ!!この奏法を基にした小品を2、3演奏しましたが、それなりにユニークなものでした。四本マレットでやれば簡単なものを、とは思うのですが、この様な事をまじめにやっている人がいるとはアメリカは広いなーと思った次第。話は変ります。

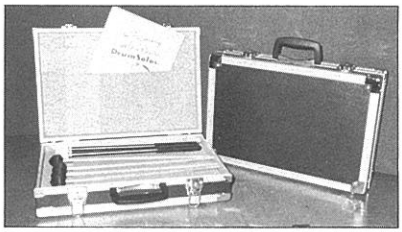
あらゆる打楽器を使ったアンサンブル

「エエッ!!これがマリンバの楽譜!!」ピアノで弾いても難しそうな、レイモンド・ヘルブルの作品を最初に見た時、目は血走り、背中の毛穴で息をしたものでした。これを楽々弾いてのけるのが今アメリカ、ヨーロッパ中を席巻しているハワード・スチーブンスです。ヘルブルのマリンバコンチェルトの世界初演との事で、出かけました。左右二本ずつのマレットが各々独立してトレモロでメロディを奏し、又マレットの開閉が脅威的に早く、驚きましたが、その半面、ふわふわと鍵盤をなぜて居る様で、ダイナミックさが欠けており、音楽感も希薄でした。マレットのエッジを手の中に交叉しないで持ち、ほとんど手首だけで奏する。と云われるこのグリップは、機能的に動きはするがパワーが出にくいのはまず決定的です。しかし〔マリンバ演奏機能の拡大〕およびオリジナル作品との兼合いから見ると今後のマリンバ奏者は両手の指に新しい〔タコ〕を作る必要があるので〝は〞と思います。今回一番感激したのはヴァイブのゲーリー・バートンと小曽根まことのピアノとのデュオでした。世界を股に演奏しているバートンといえども、当夜の様に1500人の聴衆全員がプロのミュージシャン、というやりがいのある場所はそうはあろう筈もなく、彼等ののり様は神憑り的で〝鬼気せまる。とも云う程の気魂がこちらにひしひしと伝わって、終った後も聴衆はしばらくの間正に〝感動の嵐〞といった様子でした。今回色々聴いた演奏はもとより、買って来たテープやレコードを聴いて見ると実に様々なスタイルを持ったソロやアンサンブルが多いのに驚かされます。この多様性は何処から来るのでしょうか？皆が画一的な演奏をする日本と違い発想の原点が違う気がしてなりません。皆が一人一人自分の感性で楽器を見つめていったからこそこの様な多様性が出て来たのでしょう。又演奏者が実に楽しそうに演奏し、聴衆もそれを心からエンジョイしていると云う事。日本の演奏会場でのあの堅い白けた雰囲気を思う時、音楽と言うものはもっともっと楽しいものだ、と云う事を自分の反省も含めて思いました。又色々人に聞いて見ました所、外国では作曲家に作品を依頼する時、皆強く演奏者の意見を入れさせているとの事で、日本では作曲者を神様か不可侵地帯の様に思い、その奴隷の様になっていると云う現象が一部にあるようですが、二度と演奏されない様な曲が多く出来上がるのも、まったくもったいない話で、演奏家ももっと自主性を持ち、自分を大切にした方が良い、と思った次第です。

JPCオリジナル・マレット用トランクケース
限定50個発売!!

B4判の楽譜が楽に入る大きさです。内部は2段に分れ、マレット・ヘッドを痛めない工夫もしてあります。色は赤と茶色の2色。

定価￥18,000（会員価格￥12,000）



From INDONESIA

バリ島見聞録

JPC No.712　石井まゆみ

工場に吊されていたゴング

10月5日、秋色の気配を漂わせはじめた日本を脱出して約9時間後、不安と期待に押し潰されそうになりながらバリ島デンパサール空港に到着。輝く太陽、灼い砂、そしてガムラン音楽を肌で感じるために！

1 民族舞踊と音楽

バリ島の代表的な民族舞踊には、聖獣バロンと魔女ランダとの永遠の戦いを表わすバロン・ダンス、子供たちが美しく飾りたてて踊るレゴン・ダンス、車座に座った男の人たちが猿の声を真似して「チャクチャクチャク…」と囃したて、その輪の中でインドの大叙事詩ラーマーヤナを踊るケチャック・ダンスの3つが挙げられる。

バロン・ダンスは、魔女ランダと聖獣バロンの永遠の戦いを表すもので、バロンの従者達がランダの魔法にかかって自らの手で胸を突くところなどドキリとする。ダンスというより演劇のようで、日本の歌舞伎に似ている気もする。最約的には善が勝つこともなければ悪が勝つこともないというバリ・ヒンドゥー教の宗教色濃い踊りである。

レゴン・ダンスは、初潮前の女の子が神に捧げたというサンヒヤン・ドゥダリという踊りから発生したものである。

彼女達の踊りは実に華やかで、独特の姿勢、首や指、目の使い方などの微妙な動きを実に見事にこなす。あどけなさの中に妖しい光がひかったようで思わずゾッとした時もある。

バロン・ダンスもレゴン・ダンスもガムラン音楽に乗って展開される。内容の違う2つの踊りに比べ音楽の方はどちらもあまり差がないようだ。おおよそのパターンは決まっているようで、拍子は寸系が多い。これが1曲の中で速くなったり遅くなったり変化する。カジャールというおわんをひっくり返したような楽器がメトロノームのようにテンポを刻んでおり、これよりもゆったりとした周期でゴングがテンポを刻んでいる。メロディーは、様々な名前のついた青銅製の鉄琴のようなものが低音部から高音部まで重り合って生み出され、尺八のようなスリンがさらに重なる。これらをまとめるコンサートマスターの役目を果たすのはクンダンという太鼓である。

同じインドネシアでもジャワ島のガムランとは異って活気のあるバリ島のガムランは、いたる所に調子良くアクセントが入っていて西洋的な雰囲気を漂わせる。

ケチャック・ダンスで踊られるラーマーヤナは後から組み込まれたと伝えられ、男声合唱は古い儀式サンヒヤン・ドゥダリの一部であった。「チャクチャク……」の絡み合いが非常に面白く、複雑なポリリズムを聞いているような気分になる。ふと気付いてみると、これもバロンやレゴンのガムラン音楽の形態と同じで、ゴングの役目をする人、カジャールの役目をする人等がちゃんといるのである。

レゴン・ダンス

著者

ガムラン音楽を聞いていると、それぞれの楽器が島を囲む自然から、人々の生活から生まれて何か想像も出来ないほど大きな何かと結びついていくような感覚にとらわれる。

2 金属の音　竹の音

出発前から何となくゴングの工場へ行けたら、という気持ちがあって、ガムラン音楽を聞いた途端にこの気持ちが爆発した。音色は空気を振動させ、響きは大地を伝わって体の中に入り込む。決して大きな音ではないのにいつまでも体の中で響いている。暖かくて大きな響き。観光なんて1日くらいつぶれても良い、高いお金を払っても良い、どうしてもゴングの出生地を見たい！……道に迷いながらようやく辿り着いた所は何の変哲もない民家だった。少々興覚めして門をくぐると庭に小さな作業場があって、3、4人が働いている。老人がひとりいた。金属の板を削る人、たたく人、そして老人は思いついたように（本当はそうではないだろうが）火を起こす。額に汗して働いていたけれどいくつかの作業の音がガムランと重なって聞こえてくる気がする。どうも重症の病にかかったようだ。残念ながら、ゴングは受注生産制をとっているためその時は作っていなかったので、「今度来たら絶対に持って帰るぞ。」と誓った。

工場の庭に直経1mくらいのゴングがかかっていた。ゲンコツでたたいてみると、やっぱり暖かくて大きな響き。思わず「これなんだよネ！」と叫んでしまった。

バリ島で、もうひとつ好奇心をそそった音は竹の音。あまりひらけていない観光地のお土産屋さんに竹製の風車のようなものがあった。プロペラが風でクルクル回り出すと軸についている卍形の竹も回り、枠についているシロフォンの音板のような竹に当って音が出る仕掛けになっている。これがまた何とも言えない音で、カラカラと澄んだ音をあちこちに振りまく。アンクロンも探してみたが、お土産用しかなくがっかり。

3 バリ島というところ

バリ島は、民族舞踊、ガムラン音楽の他にイマジネーションのみで描く絵画や超繊細な銀細工、美しい木彫りなどもかなり有名で、アート・アイランドとでも名付けたくなる。インドネシアは大部分の人々がイスラム教を信仰しているが、バリ島ではほとんどの人がバリ・ヒンドゥー教を信仰している。お国柄か信仰のせいか人々は家や家族を大切にする。子供達は学校から帰るとすぐ家の仕事を手伝う。学校に行っていなければ時間が許す限り家を手伝う。せっぱつまったり、荒んだようなところは少しもなく、おおらかでのんびりとしているように見える。

テレビが数年前に入り込んだらしいがあまり普及していない。街頭テレビのようなものがあるのだが、別にそれに群がるわけでもなく、テレビが誰もいないホールに向ってわめき立てていることもしばしばあった。設備の良いディスコもあるし、ミュージックテープ屋さんでは最新の音楽がガンガン鳴っているけれど、バリの人達にはそれほど重要なものではないように見える。人なつこい笑顔を浮かべ、何もなければそれで良い、それなりに楽しみは沢山ある、と言っているような人達。この笑顔の裏には、私達には理解できないヒンドゥー教の厳しいカースト制度がある。一見するとそんなものは存在していないようだが、彼らはちゃんとこの教えに従って生活している。だからこそ伝統が守られているのだろうし、多分これから先何年経っても楽園と呼ばれるにふさわしくこの島は文明という薬につからずに生きていくことができるにちがいない。

Drumcity 情報

Hello! Sonor's Drummer

本号よりソナードラムセットを使用しているプレイヤーに接近。皆様にホットな情報をお届けします。

ピーター・ギル

フランキー・ゴーズ・トゥ・ハリウッド
('85年6月〜7月来日)

'84のイギリスのミュージックシーンは、フランキー・ゴーズ・トゥ・ハリウッドに始まり、彼らで終わったといっても過言ではないほどにその活躍ぶりには凄じいものがあった。そして'85に入ってもその勢いはとどまるところがなく、4月にはイギリス・ポップス史上初めてデビュー以来4作連続シングル・チャートNo.1獲得するという離れ技をやってのけた。

ドラムスのピーター・ギルは、自然なチューニングでドラム全体を良く鳴らし、ポップなドラミングを披露してくれる。使用しているのはソナー・フォニック・プラスXK-1245、カラーはグロスブラック。

ブライアン・マギー

プロパ・ガンダ、元シンプル・マインズ
('85、12月9日中野サンプラザ)

フランキーを生んだZTTレーベル(音の魔術師集団)から登場したプロパ・ガンダ。ロマンティック・ノイズともいうべき幻想的なエレクトリック・サウンドは、他のどのバンドよりも美しく、過激でロマンティックであった。初来日の彼らのサウンドは、日本のミュージック・ファンに新しい息吹きを伝えてくれたことだろう。

ブライアン・マギーは今回特別参加。サウスポーの彼が使用しているのは、ソナー・ライトLK-1126MB。自然で柔らかいドラミングは我々ドラムファンにとって非常に刺激的だった。

安倍圭子 マリンバクリニックのお知らせ

とき：1月15日(祭)　午後2時〜4時
ところ：JPC PartII(パーカッションセンター地下)
¥入場無料

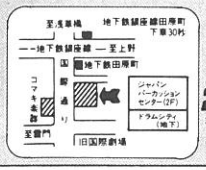
年に一度の
コマキの決算
バーゲンセール!!

'86.1.7(火)➡'86.1.26(日)

マレット、スティック、ヘッド、小物打楽器、スネアドラム、ドラムセット、マリンバ、管楽器、エレクトーン、キーボード他、全てご奉仕いたします!!

Drumcity
PREMIER、SONOR、LITE、PHONIC日本総代理店
〒111 東京都台東区西浅草1-7-1 武藤ビルB1F
電話 東京03(845)3044

●トータルミュージックショップ
株式会社コマキ楽器
〒111 東京都台東区雷門1-16-4
電話 東京03(842)6041〜5



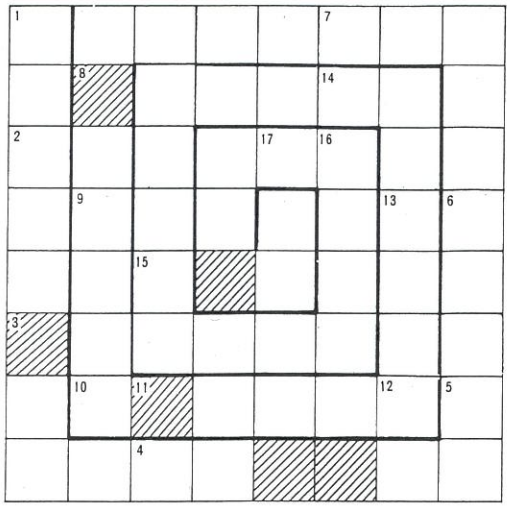
●パーカッションプロショップ
ジャパンパーカッション・センター
〒111 東京都台東区西浅草1-7-1 武藤ビル2F
電話 東京03(845)3041〜2

新入荷のお知らせ……インド民族打楽器入荷いたしました。

お年玉！ しりとり ビックプレゼント Q クイズ

（例）

1 タ	
イ	
2 コ	
マ	



☆解き方

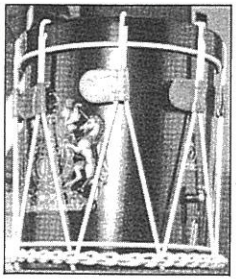
あいているマス目に矢印の方向にしたがってシリトリをしながら解いてください。完成したら斜線のマス目の６文字を組み合わせると、ある楽器の名前になります。これを答えとして書いて送ってください。

☆応募のきまり

官製ハガキに正解、住所、氏名、年齢、電話番号、JPCNo.を明記のうえ、〒111 台東区西浅草1-7-1　武藤ビル２F「JPCお年玉クイズ」係宛お送りください。なお、JPCに対するご意見ご希望などありましたら、お書き添えください。

☆しめきりと当選者発表

●しめきり＝昭和61年２月15日㈯必着
●当選者発表＝JCP会報No.32誌上



☆賞品☆

〈特別賞〉プレミア社製英国王室マーチングドラム（レプリカ）（１名）
〈ソナー賞〉オリジナルスウェットシャツ（２名）
〈プレミア賞〉オリジナルスティックケース（３名）
〈A賞〉JPCマレット用アタッシュケース（新製品）（２名）
〈B賞〉JPCバスドラムマレット（３名）
〈C賞〉JPCタンバリン(10")（５名）
〈D賞〉Drum City イノマタモデルスネアスティック（10名）

○当選者多数の場合には抽選にて当選者を決定させていただきます。

☆ヒント☆

1. 今年日本で科学万博が開催されたのは茨城県の――。
2. アルゼンチンタンゴに欠かせない楽器。アコーディオンに似ています。
3. 夜の街を彩る赤や青の――。
4. 室内で行うテニスは。
5. フランス語で「思い出」のこと。
6. アメリカのロックン・ローラー。代表曲は「カレンダー・ガール」。
7. ロスオリンピックの三冠王。
8. 冬はやっぱりこのスポーツが大人気。
9. 今年話題を呼んでいる太古のロマン――の里、法隆寺。
10. アメリカの作家テネシー・ウィリアムズの「＿＿＿の動物園」。
11. 世界最大のカジノがあるアメリカの都市。
12. スティーブン・＿＿＿＿＿製作の「グーニーズ」。
13. 「ガス燈」で有名な女優イングリッド＿＿。
14. 彼岸花の別名。
15. 水木しげるの代表的なマンガ。
16. 有無。何と読むでしょう。
17. ロング・ロング・アゴー。

◀JPCだより▶

●年始営業のお知らせ

1月1日～2日	コマキ楽器、JPC、ドラムシティ全店休業させていただきます
1月3日～6日	12：00～6：00まで営業いたします
1月7日～	平常通り営業いたします
1月7日～26日	決算バーゲンセール
2月1日	棚卸のため休業させていただきます

●JPC新カード発行について

JPCNo.30号でもお知らせいたしましたが、新カードは１月下旬から２月上旬にかけて皆様にお届けできる予定ですので少々お待ちください。

●ドラムシティでは、中古ドラムセット、中古シンバルのリストを製作いたしました。ご希望の方はドラム・シティまで。

編集後記

みなさん、あけましておめでとうございます！赤道の下まで夏を追いかけて行きました。本誌がまるで編集後記のようなところもあるのでダブってしまうかもしれませんけど、バリ島って良いですよォ。特にこのセコセコした世の中、それも一番荒んで情緒のかけらもない地点に居住している者にとってはエデンの園ですね。バリ島の人達にとって「仕事」とは持つ意味が私達とは全く違うようです。現地でいろいろとお世話をしてくれた人がいて、この人の仕事は、私達のパスポートを預かること、帰りの飛行機の切符を取ること、観光案内すること、家の手伝い（お店番）をすること。肉体的には楽かもしれないけれど、はじめの3点はかなり重要な事だと思う。家の手伝いだって立派な仕事。けれど彼は「僕は仕事なんてしない。」と言うのです。彼らにとって私達がしている仕事とは「したくもないのにしなくてはならないもの」らしく、何故か日本人はこの手の人種に入るようですね。「どうして仕事なんかするの？」と聞かれた時に一瞬言葉につまりましたね。「僕なんて毎日朝から晩までボーッとしてるよ。」このボーッとしている中に彼の「仕事」が組み込まれている訳なんです。でも決していい加減にやってるのではないんですよ誰も彼も。皆一所懸命です。良いですねぇこういうのって。こんな気持ちで何でも出来たら複雑な地点に住む人たちは皆笑顔になることでしょう。

冬来たりなば春遠からじ。たとえツンドラでも春は来る…と何だか訳がわかりませんが、またひとつ年を渡りました。おそるおそる足を伸ばしている人、どうせ一度は渡る年、思い切って伸ばしてみましょう。ハイジャンプで飛び越えた人、注意一秒怪我一生、細心の注意を払って着地しましょう。スタスタッと渡ってしまう人、晴れた空に鳥が鳴く、ちょっと足を停めて周りを見渡しましょう。人それぞれ渡り方はあるでしょうが、ひとつ息を吸ってみるだけでちょっと発見がありますよ。

――M――

表紙

アール・ハッチ氏と自作のバス・マリンバ。30年以上も前に氏自らデザイン、製作したもの。

昭和61年1月1日発行
発行所　J・P・C・事務局
〒111　東京都台東区西浅草一-七-一（武藤ビル2F）
電話　〇三-八四五-三〇四一（代）
郵便振替口座　東京九-一五三一一五
加入者　（株）コマキ楽器